



豊岡市との連携にむけての協議会（第2章自治体・地域住民と連携した新たな自治体史編纂や地域歴史博物館形成事業）

松下, 正和

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 5(平成18年度事業報告書):83-83

(Issue Date)

2007-03-31

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002262>



豊岡市との連携にむけての協議会

2006年5月25日、神戸大学と豊岡市との連携事業のあり方を協議するため、文学部地域連携センターのメンバーが豊岡市役所を訪問した。メンバーからは、センターの奥村弘・坂江渉・木村修二・松下正和・三村幸一研究推進部研究推進課係長が参加した。豊岡市側は、大垣健夫教育委員会文化振興課長・瀬戸谷皓私立出土文化財管理センター長・加賀見省一但馬国府国分寺館長らが参加した。

18年度中の企画として、①豊岡市域での水害フォーラム、水害パネル展の開催、②史料ネットと神戸大学文学部地域連携センターが協力してレスキューした出石町日野辺区有文書の仮整理・返却作業と、地元住民への古文書説明会の開催、③浅倉地区田尻早苗家文書のクリーニング・点数確認作業、④但東町矢根地区大石家事前調査・大石家文書整理活動を、大学・ボランティア団体・行政・但馬史研究会との間で連携して行いたい旨を提起した。また、2006年10月6日に大垣氏が来学された折には、奥村弘・松下が対応にあたり、②と④の事業については神戸大学と連携して行う点を確認された。

2007年3月末の段階では、①は実現できなかった。②については、整理作業が完了しあとは日野

辺区に返却するだけとなっている（巻末の参考資料「大石（武兵衛）家事前調査報告」参照）。また、豊岡市からは史料ネットに対して整理のための補助金が支給された。③については、但馬国府・国分寺館の小谷氏によれば2005年9月末に燻蒸処理をしていただいたとのことであった。④については、この会議に先立つ前日の24日に大石武兵衛家文書の事前調査を行ったが（詳細は木村修二報告を参照）、本格的な整理活動には至っていない。神戸大学工学部の足立研究室による建築調査とともに、来年度には調査が進むように、豊岡市と神戸大学との協力関係を確認しつつ早急に話し合う必要がある。

③については蔵の解体に伴い、2005年8月に史料ネットや但馬国府国分寺館がともにレスキューした文書（文学部地域連携センターのメンバーも救出活動に参加）であり、現在同館にて保管していただいている。所蔵者は公的機関への寄贈を希望しているが、なお所蔵先が確定しておらず、2007年度以降の課題となっている。少なくとも寄贈手続きのための点数確認作業をおこなう体制を構築されるよう関係各位にお願いしたい。

（文責・松下正和）